

研究成果及び活動一覧 (2002. 1. 1～12. 31)〔五十音順〕

- A：著書、論文、書評など
 B：学会での口頭発表その他の活動
 C：講演、論説など
 D：学術的調査

井川健司

- D：1 速水流流祖と岡山藩との関係調査（京都茶家）
 結果 岡山藩藩主池田治政（光政の嗣）が速水宗達を藩の茶頭役として正式に招請した文書を発見（某氏所蔵）。
 2 岡山藩人見家文書調査（岡山県立博物館）
 結果 岡山の広範な速水流を統括していた人見家についての調査を何年も手がけているが、文書が不明となり、やっと県博に入った由を知り、その残った文書を閲覧させていただいた。人見家が岡山藩の武家で表・裏千家流であったのが、ある時期から速水流に変わったことをつきとめた。それは①との関連で理由づけできそうである。

井上英明

- A：1 （論説）『国語教科書』を読む——日英比較文学の立場から——「史ふみ」（通巻30号）、pp. 2-8. 1. 30.
 2 （論文）「墮ちたライオン像——権威と規範の崩壊——」、『古典と先達』（明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集・第五輯〔責任編集者〕小堀桂一郎、〔刊行責任者〕井上英明）、pp. 154-188. 3. 15.
 3 （論文）『伊勢物語』成立私考第四稿——『伊勢集冒頭歌群とのかかわり』——（明星大学研究紀要、日本文化学部・言語文化学科、第10回記念号）pp. 11-25. 3. 25.
 4 （事典項目執筆）「外国語訳」『源氏物語事典』林田孝和他五名編集、大和書房）pp. 113-114. 5. 25.
 5 （論文）「源氏物語英訳者、アーサー・ウェイリーの血統について」（「むらさき」紫式部学会編輯、創立70周年記念号）、pp. 53-57.
- B：1 （学会コーディネーター）第47回東方学会会議、セミナーII「筑紫の歴史と文化」於学習院大学 5. 17.
 2 （学会司会）土屋久美子「ロシア語訳源氏物語——〈語り〉と和歌を中心として——」於武蔵大学、5. 18.
 3 （英語による講義）History of Japan ——with on Emphasis on the Heian Period 794-1185AD——（米国ミシシッピ州派遣教師団のため）、日野校舎、大学会館、5. 26.
 4 （研究発表）「国語教育における比較文学の役割と責任」、日本比較文学会東京支部例会、於日本女子大、9. 21.
 5 （学会司会）畑中千晶「鐘の中の西鶴——英・仏訳が映し出す『男色大鑑』のイメージ」

- ジ—日本比較文学会第40回記念東京大会、於鶴見大学会館、10.20.
- 6 (講義)「世界の中の源氏物語——海外での読まれ方——明星大学公開講座、於明星大学青梅校舎、11.16.
 - 7 (学会司会) 韓国忠南大学教授張南瑚「漱石と韓国」第86回全国大学国語国文学会平成14年度冬期大会、於東北大学、12.1.
 - 8 全国大学国語国文学会常任理事として学会設営(年間)
 - 9 日本文体論学会常任理事として学会設営(年間)
 - 10 東方学会評議員、国際運営委員として国際会議設営(年間)
 - 11 日豪NZ教育文化学会会長設営及び研究紀要発行(年間)
 - 12 早稲田大学比較文学会常任理事として学会設営(年間)
- C : 1 (学外集中講義) 源氏物語について(小平市主催源氏物語講座) 於小平市公民館、5.11, 21, 28.
- 2 (講演)「世界の中の源氏物語」(主催福島県高等学校国語教育研究会)、於ラフィエネ郡山、11.1.
 - 3 (学外講義)「光源氏の没落の端初」——若菜上・下巻を中心に——源氏物語研究会、於多摩センター、11.10, 17.

牛村 圭

- A : 1 (論文)「山本七平と東京裁判」、『Voice』3月号、PHP研究所、pp.118-129. 3.1.
- 2 (論文)「学的良心に導かれて——英米法の先達 高柳賢三——」、明星大学日本文化学部編『古典と先達』、pp.242-264. 3.10.
 - 3 (論文)「歴史家の資格」、『史』7月号、新しい歴史教科書をつくる会、p.19. 7.30.
 - 4 (論文)“A Legacy of World War Two—The Tokyo War Crimes Trial and its Intellectual Influence upon Postwar Japan—”、『明星大学研究紀要(日本文化学部・言語文化学科)』第10号、pp.59-63. 3.25.
 - 5 (共著)『検証・靖国問題とは何か』、担当「『A級戦犯』の濫用を憂う」、pp.174-193. PHP研究所、7.31.
- B : 1 (研究発表)「外国人の見た戦後日本を読む」、「文明から観る二十世紀日本の学際的研究」研究会、2.21.
- 2 「共同研究・文明から観る二十世紀日本の学際的研究」(サントリー文化財団) 主宰。
- C : 1 (インタビュー)、「東京裁判・『文明の裁き』を問う」、『明日への選択』8月号、pp.30-35. 日本政策研究センター、8.1.
- 2 (インタビュー)「日本人と東京裁判——厳しい国際情勢の中で生き抜くために——」*Monthly IIC* 12月号、インナー・トリップ・イデオログ・リサーチ・センター、pp.1-2. 12.1.
 - 3 (シンポジウム)「今、あらためて問う! 日本人はなぜ敗戦の打撃から立ち直れな

- いのか」、新しい歴史教科書をつくる会、8. 3.
- 4 (論説)「変容する日記」、『北國新聞』、p. 3, 1. 27.
 - 5 (論説)「外務大臣の日本語」、『北國新聞』、p. 3, 3. 10.
 - 6 (論説)「岐路に立つ第二外国語」、『北國新聞』、p. 3, 4. 21.
 - 7 (論説)「戦後という空気」、『北國新聞』、p. 3, 6. 2.
 - 8 (論説)「大人の矜持」、『北國新聞』、p. 3, 7. 14.
 - 9 (論説)「日本人とは誰のことか」、『北國新聞』、p. 3, 8. 25.
 - 10 (論説)「隣は何をする人ぞ」、『北國新聞』、p. 3, 10. 6.
 - 11 (論説)「グリーティングカード」、『北國新聞』、p. 3, 11. 17.

岡田恒雄

- A : 1 論文:「ブレヒトと日本の伝統演劇——子供の悲劇と異化効果」、『ドイツ・文学の描くその紋様 (棗田光行先生退職記念論集)』、pp. 30-47、棗田光行先生退職記念論集編集委員会、7. 21.
- 2 巻頭言:「由良之助と謡曲『屋島』」、『総合芸術としての能』第8号、p. 2・3、世阿弥学会、8. 8.
 - 3 学会シンポジウム/記録: パネルディスカッション「演劇の東と西—日本の伝統演劇とシェイクスピア」、(パネリスト/上田邦義、田口和夫、鳥越文蔵、司会/岡田恒雄)、『文学・語学』、pp. 27-50、全国大学国語国文学会、9. 30.
- B : 1 学会シンポジウム/司会: パネルディスカッション「演劇の東と西—日本の伝統演劇とシェイクスピア」(パネリスト/上田邦義、田口和夫、鳥越文蔵、司会/岡田恒雄)、全国大学国語国文学会、明星大学日野校舎シェイクスピアホール、6. 1.
- 2 学会シンポジウム/パネリスト:「世阿弥と修羅」(「新中納言知盛と修羅能」について発表)、世阿弥学会、西新井文化センター (ギャラクシティ研修室)
- C : 1 劇団セミナー:「ブレヒトと謡曲『谷行』」、池袋小劇場、2. 5.
- 2 劇団セミナー:「ブレヒトの『イエスマン』と『ノーマン』」、池袋小劇場、3. 7.

古田島洋介

- A : 1 随筆:「すべからく」考(余話)、「比較文学研究」第79号、pp. 174-177、2. 28.
- 2 「漢文教育の黄昏」、小堀桂一郎 [編著]『「ゆとり教育」が国を滅ぼす』(小学館文庫) pp. 195-207、3. 1.
 - 3 「返り点をつかむ——先達が古典に対して発揮した知恵」、明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集・第五輯『古典と先達』([編集責任者] 小堀桂一郎、明星大学日本文化学部) pp. 109-153、3. 10.
 - 4 「〈不亦楽乎〉の俗解——原文を忘れた漢文訓読の危険性」、『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科) 第10号、pp. 51-60、3. 25.
 - 5 「杜牧〈山行〉詩——〈坐〉字再考——」、「東アジア比較文化研究」第1号、pp.

33-46、6. 20.

- 6 「《諸橋大漢和》与《漢語大詞典》」[中国語]、楊棟梁・嚴紹盪〔主編〕趙德宇・劉雨珍〔副主編〕『變動期的東亞社会与文化』（天津人民出版社）pp. 629-639、8. 0.
 - 7 「森鷗外與台湾」[中国語]、陳明姿〔編〕『後殖民主義：台湾與日本』論文集（台湾大学日本語文学系）pp. 161-168、8. 0.
 - 8 「英語との格闘——日中韓の〈直訳〉をめぐる」、日本比較文学会「2002年東アジア比較文学京都フォーラム報告書」pp. 117-125（英訳pp. 126-138）、8. 0.
 - 9 「国訳とは何ぞや——翻訳文体史の一齣」、「比較文学研究」第80号、pp. 4-20、9. 30.
 - 10 「漢詩人としての大正天皇」、「正論」平成15年1月号、pp. 308-318、11. 30.
- B : 1 学会発表：「森鷗外與台湾」[中国語]、シンポジウム「後殖民主義：台湾與日本」、中華民国（台湾）台北市、国立台湾大学大学日本語文学系、4. 2.
- 2 学会発表：「英語との格闘——日中韓の〈直訳〉をめぐる——」、2002年東アジア比較文学京都フォーラム、京都造形芸術大学、6. 14.
 - 3 学会／司会：第64回日本比較文学全国大会において、二名の研究発表（趙賢姫「『剪灯新話』の〈異境譚〉をめぐる——金鰲新話・雨月物語を比べて」、許均瑞「台湾の新聞書評に現れる〈日本文学像〉——中国時報〈開卷週報〉を中心に」）の司会をつとめる。京都造形芸術大学、6. 16.
 - 4 学会／司会：第5回東アジア比較文化国際会議日本支部大会において、二名の研究発表（江口冽「伊勢神宮の遷宮の本姿」、王晓平「東京雑事詩と中国の都会文学」）の司会をつとめる。羽衣国際大学、6. 23.
 - 5 学会発表：“Miyazaki Toten and Chinese Poetry on the Trip to Bangkok, An Aspect of the Literary Exchange between Japan and Thailand” [英語]、FILLM XXII International Congress, Assumption University, Bang Na Campus (ABAC)、タイ・バンコク市、8. 23.
- C : 1 連続講演「鷗外漢詩をめぐる」：1) 鷗外漢詩の根本問題——総詩数と字句の確定 2) 漢詩読解の基本——鷗外漢詩への応用 3) 漢詩の効用——鷗外漢詩の怒りと胡麻すり 4) 鷗外漢詩の環境——作詩の場と親交の環 5) 鷗外漢詩の価値——漱石漢詩との比較、文京区立鷗外記念本郷図書館平成14年度文学講座、10. 2, 9, 16, 23, 30.
- 2 チュラロンコーン大学大学院文学系博士課程特別講義：“Miyazaki Toten and Chinese Poetry on the Trip to Bangkok, An Aspect of the Literary Exchange between Japan and Thailand” [英語]、Chulalongkorn University, タイ・バンコク市、12. 9.
- D : 1 第一回島田謹二記念學藝賞 受賞対象作：《鷗外歴史文学集》第12巻『漢詩』上＋第13巻『漢詩』下（岩波書店、平成12, 13年）、4. 7.

- 2 学術調査：大正天皇御製詩碑「登呉羽山」、富山市呉羽山、9. 5.

小堀桂一郎

- A : 1 (論文)「主権回復五十周年に寄せて」、『靖国』一月号、(通巻 558 号) 靖国神社刊、1. 1.
- 2 (論文)「森鷗外の翻訳文学との出会ひ」、『雑誌初出森鷗外集』、ナダ出版センター刊、1. 30.
- 3 (論文)「日本人の在るべき様は——」、『月曜評論』二月号、月曜評論社刊、2. 18.
- 4 (編著：編集と執筆)『ゆとり教育が国を滅す——現代版「学問のすすめ」』、小学館文庫 (pp. 279)、小学館刊、3. 1.
- 5 (論文及び編集)「道理の世紀を拓いた人々」、『明星大学日本文化学部共同研究論集第五輯・古典と先達』、明星大学日本文化学部刊、(p. 3~58)、3. 10.
- 6 (論文)「伯の母の話」、『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科)第十号、(p. 1~9)、明星大学日本文化学部刊、3. 25.
- 7 (論文)「西欧文明と日本文化との邂逅」、国際経済交流財団『知られざる日本』第3集、3. 30.
- 8 (論文)「再考・国民主権論」、『神社本庁教学研究所紀要』第七号 (p. 1~11)、神社本庁刊、3. 26.
- 9 (論文)「再び問ふ、国家主権の意味と責任」、『正論』四月号 (p. 48~56)、産経新聞社刊、4. 1.
- 10 (論文)「二つのテロ事件」、『運命の十年』(p. 45~53)、扶桑社刊、4. 30.
- 11 (論文)「黛敏郎—思想と芸術」、『Ex Musica』第六号 (p. 16~22)、ミュージックスケイプ刊、4. 30.
- 12 (編纂・執筆・校閲)『平成新選百人一首』明成社刊 (pp. 238)、5. 18.
- 13 (講演録)「期待される日本人像」、『弘道シンポジウム 2002』、日本弘道会刊、6. 20. cf. C. 10.
- 14 (散文)「二つの五十周年」、『正論』七月号、産経新聞社刊、7. 1.
- 15 (論文)「国家主権回復の意味」、『若木』七月号 (通巻 636 号)、神社本庁刊 7. 1.
- 16 (論文)「靖国神社の正統性は揺がず」、『検証・靖国問題とは何か』(p. 234~264)、PHP 研究所刊、7. 31.
- 17 (論文)「盧溝橋事件を軽んずるなかれ」、『正論』八月号 (p. 216~226)、産経新聞社刊、8. 1.
- 18 (論文)「八月のみことのり」、『日本』八月号 (p. 18~25)、日本学協会刊、8. 1.
- 19 (論文)「日台教育交流三十年」、『祖国と青年』八月号 (p. 42~49)、日本青年協議会刊、8. 1.
- 20 (単行本)『日本に於ける理性の伝統』、「国民会館叢書」第 44 輯 (pp. 89)、国民会館刊、9. 19. cf. C. 20.
- 21 (講演録)「国家主権の理解と実態」、『日本の再生』第 15 号、日本郷友連盟刊、10. 1. cf. C. 27.

- 22 (講演録)「国際的視野から見た日本の国柄」、『統合』第36号(p.4~31)、防衛庁統幕学校刊、10.30.
 - 23 (書評)「鈴木正男氏の遺著」、『不二』十二月号、不二歌道会刊、12.1.
 - 24 (講演録)「国際社会に於ける日本」、『修親』十二月号、陸上自衛隊修親会刊、12.1.
 - 25 (論文)「明治憲法に於ける統帥権」、『明治天皇とその時代』(『正論』臨時増刊、p.58~77)産経新聞社、12.5.
- B : 1 (講演)「古今の和歌に見る推移の感覚」、国語問題協議会京都大会、6.29.
- 2 (シンポジウム報告担当)新しい歴史教科書をつくる会シンポジウム「なぜ日本人は敗戦の打撃から立ち直れないのか」、パネリスト報告、8.3.
 - 3 (報告・討議筆録)「どうして日本は敗戦から立ち直れないのか」『正論』十月号(p.128~151)、産経新聞社、10.1. cf. B.2.
 - 4 (講演)「物語と和歌の結びつきについて」、国語問題協議会仙台大会、10.5.
- C : 1 (短文)「真珠湾六十年・その時私は——漠然たる不安」、『諸君!』一月号、文藝春秋刊、1.1.
- 2 (論説)「内親王様の御誕生を祝ひ奉る」、『日本の息吹』一月号(通巻170号)、日本会議刊、1.1.
 - 3 (論説)「もし皇室典範の改正を言ふならば」『神社新報』一月一日号(通巻2630号)1.1.
 - 4 (散文)「あまっさへ」、『正論』二月号、産経新聞社刊、2.1.
 - 5 (座談会)「国際軍事法廷は「文明の裁き」たりうるか」、〔牛村圭、工藤雪枝、クライン孝子〕、『諸君!』二月号、文藝春秋刊、2.1.
 - 6 (論説)「日本の国柄——我が国の歴史と伝統」、『月刊ICC』、ICC刊、2.1.
 - 7 (論説)「建国記念の日——一つの考へ方」、産経新聞「正論」欄、2.11.
 - 8 (講演)「日本人の道德性の根源」、神奈川県神社庁神職研修、3.11.
 - 9 (講演)「主権回復五十周年の意味」、海上自衛隊第21航空群館山基地幹部会、3.13.
 - 10 (講演)「期待される日本人像」、日本弘道会、3.16. cf. A.13.
 - 11 (論説)「天皇陛下の靖国神社御親拝を」、『祖国と青年』四月号(p.48-56)、日本青年協議会刊、4.1.
 - 12 (論説)「主権回復五十周年に思ふこと」、『日本』第160号、祖国日本の会刊、4.10.
 - 13 (講演)「主権回復五十周年の意味」、乃木神社崇敬者大会、4.14.
 - 14 (講演)「主権回復五十周年によせて」、「正論をきく集ひ」於産経プラザ、4.20.
 - 15 (論説)「主権回復五十周年に思ふ」、『神社新報』四月二十二日号(通巻2644号)、4.22.
 - 16 (論説)「主権回復五十周年の記念日に」、産経新聞「正論」欄、4.26.

- 17 (対談)「ゆとり教育が日本を衰亡させる」、vs 木村貴志、『正論』五月号 (p. 230-241)、産経新聞社刊、5. 1.
- 18 (論説)「今こそ迷夢からの覚醒を」、『NTT 東日本ビジネス』五月号 (p. 24-27)、NTT 刊、5. 1.
- 19 (講演)「理性の復権」、前田建設・前田塾、5. 10.
- 20 (講演)「日本に於ける理性の伝統」、国民会館第 831 回武藤山治記念講座、5. 18. cf. A. 20.
- 21 (論説)「靖国代替施設は所詮不可能」、産経新聞「正論」欄、6. 11.
- 22 (講演)「靖国神社の正統性」、経済同友クラブ、6. 14.
- 23 (講演)「国家主権について考へる」、松下政経塾、7. 5.
- 24 (鼎談)「主権国家の民としての自覚と誇りを」〔入江隆則、井尻千男〕、『日本文化』第九号 (p. 8-29)、拓殖大学日本文化研究所刊、7. 10.
- 25 (講演)「国家主権について」、日本会議奈良県民大会、7. 12.
- 26 (論説)「教育施設としての新遊就館」、産経新聞「正論」欄、7. 16.
- 27 (講演)「国家主権の理解と実体」、日本郷友連盟安全保障フォーラム、7. 24. cf. A. 21.
- 28 (対談)「何度でも申し上げる、小泉総理は八月十五日に靖国神社参拝を」vs 倉林和男、『正論』九月号 (p. 96-107)、産経新聞社、9. 1.
- 29 (講演)「日本人の宗教心について——万物に神を見る心」、栃木県神社庁・県神道政治連盟秋季大会、9. 9.
- 30 (講演)「乃木将軍の御生涯とその思想」、乃木神社、9. 21.
- 31 (散文)「日本とインド——修交五十年の記念年に」、日本会議『日本とインドが築く明日のアジア』、9. 26.
- 32 (講演)「日本外交の行くべき道」、日本弘道会安房館山支部、10. 26.
- 33 (講演)「英霊の遺囑に應へる道」、福岡県遺族連合会、11. 11.
- 34 (対談)「日本再生の時は今」、vs 三好達日本会議会長、日本会議『日本の息吹』十一月号 (p. 4-13)、11. 15.
- 35 (論説)「占領はまだ続いている……」、産経新聞「正論」欄、11. 23.

加藤めぐみ

- A : 1 「ローザ・プレイドの日本小説——『他者』としての日本を描いた先達」明星大学青梅校舎 日本文化学部 共同研究論集・第五輯『古典と先達』pp. 265-278、3. 10.
- 2 『20 世紀オーストラリア文学にみる日本人像』平成 12・13 年度科学研究費補助金萌芽的研究 研究報告書、102 頁、3. 25.
- 3 書評：「ヴァレリー・ローソン著、*Out of the Sky She Came : The Life of P. L. Travers, Creator of Mary Poppins*」、『南半球評論』第 17 号、pp. 56-58、3. 31.

B : 1 オーストラリア・ニュージーランド文学会理事運営、年間

- D : 1 オーストラリア進駐軍体験が生んだ文学について：オーストラリア、キャンベラ Australian Defence Force Academy 及び National Library of Australia において資料収集、研究打合せ、3. 26～4. 2.
- 2 第二次大戦と日豪の女性たちによる文学について：オーストラリア、キャンベラ Australian Defence Force Academy 及び National Library of Australia において資料収集、研究打合せ 8. 13～23.

佐佐木茂美

- A : 1 (論文集) *Emeraude et Jaspe*, 『中世フランス文学論文集』(大学個人研究費「増額分」に依る刊行)、第一巻、(欧文篇1)、457pp.、2002. 3. 31.
- 2 (論文) Voies de savoir et de poésie : poétique du voyage chez deux poétesses de France et du Japon, *Proceedings of the 14th International Colloquium on Christine de Pizan, University of Glasgow* pp. 777-793, 2002. 3
- B : 1 (研究発表) Château de Priam dans le *Roman de Tristan on prose*, (司会：学会名誉会長：Philippe Ménard (Sorbonne)), Société Internationale Arthurienne, 第20回総会、England, University of Wales, Bangor, 7. 20.
- 2 (研究発表) 『散文トリスタン物語』におけるアーサー王の系譜——トロヤの家系よりその敵影へ——その変容、アーサー王学会支部総会、立教大学、2002. 12. 21.
- 3 旧師ジャン・フラピエへの『研究成果報告』——『中世フランス文学論文集』第一巻の刊行、『流域』、51巻、青山社、pp. 54-57、2002. 11. 6.

佐々木滋

- A : 1 (論文) 「リヒテンベルクの生涯—大学入学のころの教師たち—」、『明星大学日本文化学部言語文化学科研究紀要』第10号第10回記念号、pp. 162～155、3. 25.
- 2 (翻訳) 「深夜のモダンな団欒—社交的な真夜中の歓談—最新の嗜好もしくはパンチ酒パーティー—G・C・リヒテンベルク」、『明星大学日本文化学部造形芸術学科研究紀要』第10号、pp. 27～36、3. 25.
- D : 1 「東欧におけるユダヤ主義とヘルダー」ヘルダー協会・メンデルスゾーン協会主催、ポツダム市旧市庁舎にて8. 31～9. 4開催に参加。
- 2 総合科目V「絵画と詩」にてゲーテの『イタリア紀行』にみられるドイツ人画家(カウフマン、ティッシュバインなど)の作品を鑑賞し、最後にはアプレイウスの『愛と心』とそのクリンガーの挿絵連作を兼ね合せて鑑賞した。

柴田雅生

- A : 1 「キリシタン版における「分」の用法について」、『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科)第10号、pp. 61～68、3. 25.

- 2 「仮名遣い」『ケーススタディ日本語の歴史』（半沢幹一・安部清哉・小野正弘・金子弘編、おうふう）、pp. 42~47、11. 15.

正慶 孝

- A : 1 (論文)「経済学原理論の方法——難波田春夫氏の場合」、『明星大学日本文化学部共同研究論集・第五輯 古典と先達』所収、pp. 213-241、3. 10.
- 2 (論文)「『企業家精神』の時代」、『明星大学日本文化学部言語文化学科紀要・第十回記念号』所収、pp. 27-40、3. 25.
- 3 (論文)「現代経済は錬金術が支配する? ——エロス・タナトス・市場」、『青梅会報』第21号所収、pp. 100-118、11. 29.
- B : 1 (学会発表)「近代の錬金術について」、地下経済研究会7月例会、日本大学経済学部、7. 27.
- 2 (学会活動) 地下経済研究会副会長
- C : 1 (談話記事)「少年の社会病理について」、AFP 通信 (世界各地の新聞社へ配信)、1. 7.
- 2 (談話記事)「危うし、ニッポンの農業」、『サンデー毎日』3月31日号
- 3 (談話記事)「人材を育てる三井の伝統」、『国宝倶楽部えん』涼風光彩号、9. 10.
- 4 (談話記事)「自己愛“写す”特大コピー機」、『東京新聞』10月8日付
- 5 (談話記事)「日本の食総点検!」、『ダカーポ』10月16日号
- 6 (講演)「2002年日本経済を読む——マクロ経済をどう読むか」、足立新春経済セミナー、足立区ギャラクシティ、1. 30.
- 7 (講演)「現代経済は錬金術が支配する? ——エロス・タナトス・市場」、明星大青梅キャンパス公開講座、6. 1.
- 8 (論説)「『文明の衝突』の時代に世界をどう読むか」、メール・マガジン『Only You』1. 31.
- 9 (論説)「論理力を鍛える『方法序説』(1)」、同上、2. 28.
- 10 (論説)「古典と教養『方法序説』(2)」、同上、3. 28.
- 11 (論説)「古典と応用問題——『戦争論』」、同上、4. 26.
- 12 (論説)「シェイクスピアと現代——『ジュリアス・シーザー』」、同上、5. 31.
- 13 (論説)「ゾンバルト『恋愛と贅沢と資本主義』」、同上、6. 28.
- 14 (論説)「マルクス『資本論』を読む」、同上、7. 26.
- 15 (論説)「ドラッカー『経済人の終わり』を読む」、同上、8. 30.
- 16 (論説)「『世界という書物』を読む」、同上、10. 4.
- 17 (論説)「本の中の本『聖書』を読む」、同上、10. 25.
- 18 (論説)「驚き(ワンダー)が肝腎」、同上、11. 22.
- 19 (論説)「現代的教養と古典の意義」、同上、12. 20.

田中 敏

- A : 1 翻訳(共訳)『世界戦争犯罪事典』監修: 秦郁彦他 (株) 文藝春秋

林 雄介

- A : 1 資料紹介: 「大韓帝国末期社会運動団体会員名簿(1)、『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科) 第10号1、pp. 81-100、3. 25.
2 書評: 李栄昊著『韓国近代地稅制度と農民運動』、『朝鮮史研究会会報』149号、pp. 19-20、朝鮮史研究会、9. 30.
- B : 1 シンポジウム/パネリスト: 日韓歴史共同研究プロジェクト第5回シンポジウム、於一橋大学、8. 24~8. 25.
2 書評: 姜昌一著『近代日本の朝鮮侵略と大アジア主義—右翼浪人の行動と思想を中心に』、『朝鮮史研究会関東部会11月例会、於専修大学神田校舎、11. 16.
3 朝鮮史研究会幹事長、年間
4 歴史科学協議会編集委員、年間
- D : 1 近代朝鮮政治史、社会史関係の資料・文献を、大韓民国国立中央図書館および政府記録保存所にて収集、9. 7-9. 13.
2 朝鮮植民統治に関する日本側資料を大韓民国政府記録保存所にて収集、12. 22~12. 28.

深澤 清

- A : 1 「海を渡る乙女たち—古典の中の母なる海・日本とアイルランド」『古典と先達』(明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集)、pp. 189~210、3. 25.
2 「ポートフォリオ作成によるリーディングの指導—一般教育をより魅力あるものに」、『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科) 第10号、pp. 31~40、3. 25.
- B : 1 日本ワイルド協会 幹事・書記 (通年)
- C : 1 「母性の二面性」『青梅会報』第20号 3. 20.
- D : 1 バンゴー大学(ウェールズ) R. S. Thomas 研究センター 8. 27-9. 7.

万 恵洲

- A : 1 《漢字奇特的文化功能》(中)『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科) 平成14年 3. 20.

菱山覚一郎

- A : 1 『社会科の理論と課題』明星大学出版部、176ps. 1. 8.
- B : 1 研究会発表：「初期社会科と総合的学習の関係—理念と実践の検討—」多摩地区教育研究会、11. 22
- D : 1 昭和初期の民間教育運動について：多摩地区の民間教育運動の調査、8. 23. -8. 25.
2 教職課程の総合演習において、現代の教育問題の探究と「総合的な学習の時間」の進め方の検討。

秀村研二

- A : 1 「20世紀韓国キリスト教の展開」杉本良男編『宗教と文明化』（20世紀における諸民族文化の伝統と変容7）、ドメス出版、pp. 94-110、3. 30.
2 「秋葉隆一朝鮮民俗社会の体系的研究」館野哲編『韓国・朝鮮と向き合った36人の日本人』、明石書店、pp. 98-103、4. 30.
3 「キリスト教 (II)」川村湊編『韓国』（思想読本6）作品社、pp. 71-74、5. 20.
4 「曹溪寺」「明洞大聖堂」「切頭山聖地」『しにか』13巻7号、pp. 69-71、6. 1.
5 「東海（トンヘ）に面した村で」須川英徳編『韓国を歩く』晩成出版、pp. 103-123、7. 10.
- B : 1 「文化人類学から見た韓国と北九州（キリスト教を中心として）」第47回国際東方学会会議セミナー（監）「筑紫の歴史と文化」、於学習院大学、5. 17.
2 「宗教と社会」学会、編集委員
3 韓国・朝鮮文化研究会、理事
- C : 1 「韓国の社会と文化」アジア理解講座「韓国の伝統社会と現代社会—血縁・地縁・企業・宗教」（国際交流基金）、7. 5、7. 12.
2 「韓国の宗教と社会」新潟大学医学部保健学科、7. 16.
3 「韓国の社会と文化」放送大学新潟学習センター面接授業、11. 16-17.
4 「現代韓国社会と宗教」早稲田大学オープン科目「現代韓国・北朝鮮研究入門」、11. 28.
- D : 1 キリスト教会の人類学的調査、大韓民国京畿道高楊市、3. 15-22.
2 韓国におけるキリスト教の人類学的調査及び韓国における民俗変化の調査、大韓民国ソウル市、京畿道高楊市、慶尚北道安東市、8. 19-9. 7.

丸山正義

- A : 1 『パリに鳴り響いたベートーヴェン—先達フランソワ・アブネックの楽曲解釈—』、明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集・第五輯『古典と先達』、pp. 279-312、

3. 10.

- 2 『「小楽節」のかなた(2) —「スワンの恋」と「ヴァントゥイユのソナタ」—』、明星大学研究紀要【日本文化学部・言語文化学科】第十回記念号、pp. 41-49. 3. 25.

D : 1 パリのグスタフ・マラー図書館にて資料調査、9. 11-9. 16.

三木友里

- B : 1 「ITを通じた文化交流」北京大学計算機学科楊教授らとの座談会 北京大学、3. 11.
2 シンポジウム「日中仏教交流史について」チベット仏教専門家三旦嘉措氏、比叡山の住職等とのシンポジウム 京都、6. 12.
3 「日本での密教研究について」を講演 中国・ラサ、西藏大学 12. 29.
4 「今後の日中間でのチベット文化の研究」を講演 中国・ラサ、西藏檔案館、12. 30.

- D : 1 チベットの旧正月(春節)等の民族文化及び方言についての調査研究 中国・ラサ、2. 5-12.
2 在日中国人留学生と日本人学生を集めての交流懇談会 東京、4. 17.
3 「WTO加盟後の中国社会の変化に応じた中国教育の在り方」座談会 東京、5. 16.

宗内敦

- A : 1 いじめ女子中学生の個別的指導法——「管理と抑圧」から「受容と共感」の生徒指導へ——「いじめ」指導の手引き p. 111-120, 松原達哉編 教育開発研究所 2001年9月
2 いじめ女子中学生の集団的指導法——教師加害者論から考える集団的指導——「いじめ」指導の手引き p. 122-132, 松原達哉編 教育開発研究所 2001年9月
3 書評:「女人仏心の世界」(句集『一如』尾崎文英著)『創流』9巻9号、4-5, 2002年9月
- B : 1 学会発表:「態度形成に及ぼす『刺激提示の順序効果』と『情報提示効果』」日本教育心理学会43回総会、発表論文集 p. 51
2 教育・文芸誌『琅』12号 編集・発行2001年5月
3 教育・文芸誌『琅』13号 編集・発行2001年12月
4 教育・文芸誌『琅』14号 編集・発行2002年6月
- D : 1 山梨県スクールカウンセラー: 山梨県: 笛南中学校常駐スクールカウンセラー 2001年4月~2002年3月

ムーニー、エリック (Eric Mooney)

D : 1 「英語コミュニケーション」等の科目を教授す。

矢野浩三郎

- A : 1 翻訳：ガイ・バート『穴』アーティスト・ハウス、234ps. 2. 28.
 2 翻訳：ジョン・コリア「ナツメグの味」北村薫〔編〕『謎のギャラリー こわい部屋』pp. 225～242、新潮文庫 3. 1.
 3 翻訳：スチュアート・ウッズ『パリンδροーム』文春文庫、622ps. 7. 10.
- C : 1 「翻訳うらおもて——探偵アポロの禿げ頭」第20回明星大学公開講座 6. 15. (講義の要点「青梅会報」第21号に掲載 pp. 123-131、11. 29.)

山下善明

- A : 1 「場を聞く」『場と共創』第11号、pp. 40-46、場のアカデミー、3. 20.
 2 辞典項目：「田中美知太郎」『新カトリック大辞典』第3巻、pp. 988-989、研究社、8. 10.
- B : 1 (特) 科学技術振興事業団・社会技術研究グループ研究員、3月より
- D : 1 ハイデガー思索の道歴訪：ドイツのメスキルヒ、トートナウベルク、フライブルク、3. 27-4. 9.
 2 ドイツ語 III クラスにて『奥の細道』の独訳“Auf schmalen Pfaden durchs Hinteland”を読む。

山本陽子

- A : 1 (共著) 達日出典編『宗教文化全書』3「日本の宗教文化(下)第六章「中世の宗教美術——神仏と祖師の姿——」pp. 192～222、高文堂出版社、2. 15.
 2 (論文)「『承安五節絵』の似絵性について——住吉内記系の模本による——」『跡見学園女子大学紀要』第35号 pp. 95～77、跡見学園女子大学、3. 15.
 3 (論文)「冷泉為恭の天皇表現について」『明星大学研究紀要』[日本文化学部・造形芸術学科] 第10号 pp. 17-25、明星大学青梅校舎、3. 25.
 4 (論文)「絵巻における天皇の描かれ方——平安朝から近代まで——」『アジア民衆史研究』第7集 pp. 30-37、アジア民衆史研究会、5. 1.
- B : 1 (発表)「絵巻において天皇の顔が見えないように描かれる理由——平安時代の美と高貴の表現として」第53回美学会全国大会ポスターセッション、10. 13.
 2 (発表)「似絵の始まり——記録と作品——」第15回明星大学日本文化学部合同研究会、10. 29.

- C : 1 (講義)「日本美術史概論 A」多摩美術大学 ~3月
2 (講義)「美術史 B (東洋)」東京純心女子大学 ~3月
3 (講義)「日本美術史 II・美学美術史ゼミ A」跡見学園女子大学 ~3月
4 (講義)「日本美術史」早稲田大学 ~3月
5 (講義)「美術史 C (日本)」東京純心女子大学 ~12月
6 (講義)「美学美術史ゼミ B」跡見学園女子大学 ~12月
- D : 1 (調査) 東北大学図書館蔵「承安五節絵」絵巻の調査 (7. 18) と、他模本との比較研究

ロバートソン、ポール (Paul Robertson)

- B : 1 Heroes in Maori Myths and Legends, JANTA, 9. 14.

和田正美

- A : 1 「古典への道——通路を作った四人の先達」、『古典と先達』(明星大学日本文化学部共同研究論集・第五輯)、pp. 59~108、3. 10.
2 「闇の中への照射——モーム『コスモポリタンズ』の手法について」、pp. 41-50、3. 25.
- D : 1 四年次の言語文化演習で明治・大正期の随筆数編を学生と共に読む。

第15回日本文化学部合同研究会が以下の通り開催されました。

- ◆テーマ：「言葉とイメージをつなぐもの」
- ◆発表者：山本陽子（一般教育）「似絵の始まり——記録と作品」
- ◆日時：平成14年10月29日（火）午後13：00～14：30
- ◆場所：日本文化学部研究棟4F：言語文化学科図書室（N-421）